

No. 113

令和5年2月

當道

題字 故菊原 初子

(発行所)

公益社団法人 當道音楽会

〒542-0062

大阪市中央区上本町西四丁目一十七

電話 〇六(六七六八)一九一三

[https://
todo-ongakukai.jp/](https://todo-ongakukai.jp/)



「新年のご挨拶」

理事長 中村 孝義

新年あけましておめでとうございます。私が当道音楽会の理事長に就任しましたのが二〇一九年の六月。この六月ではや満四年を迎えることになりました。ただこのうちの約三年は、全く予想もしなかった新型コロナウイルスの猛威に振り回されることになりました。それが未だに終息するどころか、昨年末より始まった第八波は、感染者数はともかくも、死者数はこれまででなかったような多数に達しているのですから、もう何とも言いようがありません。そしてこの災禍が日本の社会にもたらした影響もすでに座視できない状況になってきています。もちろん本会も例外ではありません。残念なことに退会者が増加の傾向にあるのは、全国津々浦々で、この災禍のために稽古や演奏会などの活動が思うに任せなくなっているからでしょう。このような危機的状況下にあるときこそ、会員の皆様をどのように支え、前に進む勇気を与えることができるかという会の根本が問われているといっても過言ではないと思います。また当会を支えてこられた重要師匠の先生方の高齢化や死去に際して、傘下の方々をどうお支えするかも当会の重要な課題であり責務であると思われれます。何はともあれ会員数の減少は、本会のように会員の会費によってのみ成り立っている社団法人にとつては大打撃であり、これを放置すれば当会の存立にもかかわる問題を引き起こさ

ないとも限りません。本会が今後も健全な持続を図るためにも、会員相互の協力による会員数の維持や確保が、また様々な方が入会を希望するような会や組織になるための変革が求められています。本会のよい伝統は守りつつも、正すべき習慣は正していくことで、本会を末永く存続、さらには発展させていくために、会員の皆様方のご理解、積極的なご協力、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。さて今年にはコロナ禍のために二年間にわたって中止を余儀なくされていた定期演奏会を開催することになりました。これはちょうど第一四〇回目にあたる節目の定期演奏会となります。当会では、実施できなかつた期間を、この節目の演奏会の計画をじっくり練ることにあて、充実した客演の方々もお迎えすることにし、感染対策も十分に施したうえで開催しようと考えています。これを社にも広く告知し、ぜひ一人でも多くの会員の皆様にも集っていただき、この節目となる演奏会を盛大に盛り上げ、社会に対して伝統芸能分野における當道音楽会の存在感を大いに示していただきたいと思ひます。コロナ後の本会のさらなる隆盛を目指して、この記念すべき定期演奏会が本会にとつて力強い再出発の機会になることを願うとともに、皆様にとつても本年が幸多き年になることを心より祈念いたしました。新春の挨拶とさせていただきます。

理事長新年挨拶…………… 1

古典曲講習会・組歌講習会…………… 2

支部講習会を終えて(愛知・岐阜支部)…………… 3~4

子ども伝統文化体験教室…………… 4

令和4年度下期
職格試験合格者及び選考合格者一覧…………… 5

下期職格試験問題・解答…………… 6~7

文化庁
日本の伝統音楽邦楽チャレンジ!…………… 7

ホームページへのお誘い…………… 8

高知県文化環境功労者表彰…………… 8

加古川市邦楽文化協会…………… 9
~4つの“初めて”~

140回 定期演奏会曲「さくらさくら」…………… 10

関西学院大学 第六十回 定期演奏会…………… 10

令和5年度(2023年)事業計画案…………… 11

本部予告…………… 12

事務局だより…………… 12

訂正とお詫び・訃報・編集後記…………… 12

令和四年七月二十四日の日曜日、蟬の声が一段と鳴り響く夏らしい一日に、菊領令華先生の『秋風の曲』の講習会に参加させていただきました。

この曲は、光崎検校が作曲した前奏六つの段の「手事」と後半六つの段からなる曲で、歌詞は、唐の白楽天の「長恨歌」をもとにして、詩田雁門(高向山人こと)が作詞をしたという作品です。

前半は段物の構成で、前奏の替手として『六段の調』を六上りで合奏することができ、後半は一転して組歌の形式でひたすら歌う、という曲の構成は今まで経験したことがないものでした。また、調弦は本手が「秋風調子」という初めて聞くお調子で、前もつてのお稽古では調弦のところが四苦八苦いたしました。

講習会では、全く調弦の異なる本手、替手の両方をお稽古できるよ、あらかじめお筆の琴柱に、パルトそれぞれ位置の印が黄色、水色など色を変えてつけられていてこの講習会がスムーズに進められるよう、先生方が手間をかけて準備をしてくださったのだと感じ、最初から気の引き締まる思いがいたしました。

講習会が始まり、まず前奏の手事部分はひたすら弾くことのみ集中して、何とか乗り越えられたように思います。替手が六段というところで、よく知っている曲であるため替手を弾くときは普段通り六段を弾き、本手の時は「あ、六段と合わせて」ということを感じながら



希望した講習曲は、新曲の「一杯」と古典の「雲井」越後獅子。

講師には、菊聖公二先生をお招きしての開催となり、二十名の受講生に休憩をはさんで四時間のお稽古をつけていただきました。

作もの「一杯」について、

杯からは、語り口が多く、

大阪のイントネーションが難しかったが、一方でその表現がとても面白かったとの感想。また、この「一杯」越後獅子のどちらも歌の

部分の歌い方をとても丁寧にご指導してくださり、勉強になったなどの声が寄せられました。

弾く余裕が手事の時はありました。一方、後半の組歌のところでは、皆様についていこうと頑張りましたが、歌に集中すると手がウロウロとあらぬところに彷徨い、弾くことに注力すると口が動かず、という有様で、最初は歌詞の意味もあまり考えられず、楽譜のひらがなを単になぞって口を動かしている感じがして、でも菊領先生が時折演奏を止められて、「ここはもつと、しつとり」と指導くださることを聞いて、「ああ、そういえばこの曲は楊貴妃と玄宗皇帝の悲劇を歌っているのだ」と思い至り、歌詞の内容に沿った曲の緩急、間合い、歌の意味が段々と自分の中でつながっていく、講習会の最後には秋風と別れの寂しさを思わせるこの曲の情緒を少しは感じながら弾くことができたかなと思います。

まだまだ私にとっては大変難しい曲ではありましたが、今までに経験したことのない素敵な曲をご指導いただく機会が持てたことを、菊領先生、当道会の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

菊庭社中 菊和絃裕乃

開催日時 十二月二十七日(日) 午後一時～五時

開催会場 岩倉市生涯学習センター・スタジオ1

なお、今回の支部講習会開催にあたっては、広報部より、この稿と連携、講習の稽古模様を動画収録して会員で共有したらいという有意義なご提案をいただき、これを実践することとしました。

しかしながら長時間にわたった講習の収録には、編集の問題がありました(長くとも一時間半程度に収めたいという思いがありました)。

菊聖先生のご指導において、時に大きな流れの中の曲の通し、また時に一歩一歩の歩みのようなダメ出し、歌の一言一句、三絃の微妙な音の表出

の繰り返し等、残念ながらこれらの全てを収めることはできませんでした。

皆様にご覧いただく今回の動画は、撮り逃した部分も多々あり、未編集のままの部分収録動画となっております。

菊聖先生には大変申し訳なく存じますが、皆様にはどうかご理解いただいた上でのご視聴をお願いいたします。

反省点は私自身の今後の課題とします。

菊一辰巳

動画は「YouTube」(ユーチューブ)からのダウンロードで(限定公開)ご覧になれます。ご視聴手順は次のように

①このページ内のQRコードを「クルクル」などのQRコードリーダーアプリから、あるいはスマホのカメラから直接読み取る。

②自動的に動画画面が示されるので、▶をタップで再生。



この度、このような企画を立てて下さいました本部の諸先生、そしてご指導頂きました菊聖先生、会員一同心より感謝申し上げます。

愛知支部 支部長

「第一四〇回記念定期演奏会出演のための講習会」と銘打って本部より各支部へ講習会開催を呼び掛けて頂きました。

愛知支部では「越後獅子(雲井越後獅子)」「一杯」の二曲を選び、講師に菊聖公二先生をお招きしての講習会開催でした。

受講者の皆さん少し緊張ぎみの様子でしたが、先生の優しいお人柄に引き込まれ、またとても熱心に細やかなご指導をしていただき、アツという間に時間が過ぎて行きました。

地歌の奥深さゆえの難しさ、作物の滑稽な語り(関西弁)や擬音手法やリズムカルさが面白く、改めて古典の魅力に魅了されました。

この度、このような企画を立てて下さいました本部の諸先生、そしてご指導頂きました菊聖先生、会員一同心より感謝申し上げます。

愛知支部 支部長

「雲の上」「玉鬘」

講習の後半には「歌が良くなつたよ!」そんな風に歌ってね。」と褒めてくださいました。響き押しや横爪、つきいろ、すくい爪などの弾き方も丁寧にご指導くださる先生方の講習を、楽しみにしております。

組歌には、美しい歌詞に深い魅力を感じますが、私はまず歌詞を理解するだけで随分と時間がかかってしまいます。ひと歌ごとに久保田敏子先生の解説を読み、歌の内容を頭の中に描きます。しかし、弾いている時はただ楽譜を目で追うのが精一杯。歌詞どころか単語のまともささえ、あやふやになっていく事があります。今回の講習でも、菊多嘉先生は「感情を込めて歌って」と何度も仰っていました。歌の節と言葉のつながり、低音から高音への声の出し方や歌い方、特に「あたり」については何度も一緒に歌ってくださいました。

六、七、八の節、この音にたどって七、八の節、かかって知らぬ夢の世

菊原社中 菊楚代雅子

「雲の上」「玉鬘」

講習の後半には「歌が良くなつたよ!」そんな風に歌ってね。」と褒めてくださいました。響き押しや横爪、つきいろ、すくい爪などの弾き方も丁寧にご指導くださる先生方の講習を、楽しみにしております。

また、時々「初子先生がこう歌っておられたよ!」などとお話されるのを聞いて、はるか遠く「雲の上」の存在の菊原初子先生が、ほんの少し身近に感じられたようで、嬉しく思えました。そして、菊原琴治先生、菊原初子先生から伝えられたこの貴重な芸を、私達に惜しみなく教えて下さった事を、とても有難く感じました。菊多嘉先生、本当にありがとうございました。

ここで学んだ事を、私も同じように、お弟子さん達にきちんと伝えなければならぬ事に、改めて気が引き締まる思いをしました。

最後になりましたが、この講習会の開催に向けご尽力下さった委員の先生方、事務局の皆さんに、この場をお借りして御礼申し上げます。有難うございました。

菊原社中 菊楚代雅子

古典曲講習会 「秋風の曲」

令和四年七月二十四日の日曜日、蟬の声が一段と鳴り響く夏らしい一日に、菊領令華先生の『秋風の曲』の講習会に参加させていただきました。

この曲は、光崎検校が作曲した前奏六つの段の「手事」と後半六つの段からなる曲で、歌詞は、唐の白楽天の「長恨歌」をもとにして、詩田雁門(高向山人こと)が作詞をしたという作品です。

前半は段物の構成で、前奏の替手として『六段の調』を六上りで合奏することができ、後半は一転して組歌の形式でひたすら歌う、という曲の構成は今まで経験したことがないものでした。また、調弦は本手が「秋風調子」という初めて聞くお調子で、前もつてのお稽古では調弦のところが四苦八苦いたしました。

講習会では、全く調弦の異なる本手、替手の両方をお稽古できるよ、あらかじめお筆の琴柱に、パルトそれぞれ位置の印が黄色、水色など色を変えてつけられていてこの講習会がスムーズに進められるよう、先生方が手間をかけて準備をしてくださったのだと感じ、最初から気の引き締まる思いがいたしました。

講習会が始まり、まず前奏の手事部分はひたすら弾くことのみ集中して、何とか乗り越えられたように思います。替手が六段というところで、よく知っている曲であるため替手を弾くときは普段通り六段を弾き、本手の時は「あ、六段と合わせて」ということを感じながら



弾く余裕が手事の時はありました。一方、後半の組歌のところでは、皆様についていこうと頑張りましたが、歌に集中すると手がウロウロとあらぬところに彷徨い、弾くことに注力すると口が動かず、という有様で、最初は歌詞の意味もあまり考えられず、楽譜のひらがなを単になぞって口を動かしている感じがして、でも菊領先生が時折演奏を止められて、「ここはもつと、しつとり」と指導くださることを聞いて、「ああ、そういえばこの曲は楊貴妃と玄宗皇帝の悲劇を歌っているのだ」と思い至り、歌詞の内容に沿った曲の緩急、間合い、歌の意味が段々と自分の中でつながっていく、講習会の最後には秋風と別れの寂しさを思わせるこの曲の情緒を少しは感じながら弾くことができたかなと思います。

まだまだ私にとっては大変難しい曲ではありましたが、今までに経験したことのない素敵な曲をご指導いただく機会が持てたことを、菊領先生、当道会の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

菊庭社中 菊和絃裕乃

開催日時 十二月二十七日(日) 午後一時～五時

開催会場 岩倉市生涯学習センター・スタジオ1

なお、今回の支部講習会開催にあたっては、広報部より、この稿と連携、講習の稽古模様を動画収録して会員で共有したらいという有意義なご提案をいただき、これを実践することとしました。

しかしながら長時間にわたった講習の収録には、編集の問題がありました(長くとも一時間半程度に収めたいという思いがありました)。

菊聖先生のご指導において、時に大きな流れの中の曲の通し、また時に一歩一歩の歩みのようなダメ出し、歌の一言一句、三絃の微妙な音の表出

の繰り返し等、残念ながらこれらの全てを収めることはできませんでした。

皆様にご覧いただく今回の動画は、撮り逃した部分も多々あり、未編集のままの部分収録動画となっております。

菊聖先生には大変申し訳なく存じますが、皆様にはどうかご理解いただいた上でのご視聴をお願いいたします。

反省点は私自身の今後の課題とします。

菊一辰巳

動画は「YouTube」(ユーチューブ)からのダウンロードで(限定公開)ご覧になれます。ご視聴手順は次のように

①このページ内のQRコードを「クルクル」などのQRコードリーダーアプリから、あるいはスマホのカメラから直接読み取る。

②自動的に動画画面が示されるので、▶をタップで再生。



この度、このような企画を立てて下さいました本部の諸先生、そしてご指導頂きました菊聖先生、会員一同心より感謝申し上げます。

愛知支部 支部長

「雲の上」「玉鬘」

講習の後半には「歌が良くなつたよ!」そんな風に歌ってね。」と褒めてくださいました。響き押しや横爪、つきいろ、すくい爪などの弾き方も丁寧にご指導くださる先生方の講習を、楽しみにしております。

また、時々「初子先生がこう歌っておられたよ!」などとお話されるのを聞いて、はるか遠く「雲の上」の存在の菊原初子先生が、ほんの少し身近に感じられたようで、嬉しく思えました。そして、菊原琴治先生、菊原初子先生から伝えられたこの貴重な芸を、私達に惜しみなく教えて下さった事を、とても有難く感じました。菊多嘉先生、本当にありがとうございました。

ここで学んだ事を、私も同じように、お弟子さん達にきちんと伝えなければならぬ事に、改めて気が引き締まる思いをしました。

最後になりましたが、この講習会の開催に向けご尽力下さった委員の先生方、事務局の皆さんに、この場をお借りして御礼申し上げます。有難うございました。

菊原社中 菊楚代雅子

「雲の上」「玉鬘」

講習の後半には「歌が良くなつたよ!」そんな風に歌ってね。」と褒めてくださいました。響き押しや横爪、つきいろ、すくい爪などの弾き方も丁寧にご指導くださる先生方の講習を、楽しみにしております。

また、時々「初子先生がこう歌っておられたよ!」などとお話されるのを聞いて、はるか遠く「雲の上」の存在の菊原初子先生が、ほんの少し身近に感じられたようで、嬉しく思えました。そして、菊原琴治先生、菊原初子先生から伝えられたこの貴重な芸を、私達に惜しみなく教えて下さった事を、とても有難く感じました。菊多嘉先生、本当にありがとうございました。

ここで学んだ事を、私も同じように、お弟子さん達にきちんと伝えなければならぬ事に、改めて気が引き締まる思いをしました。

最後になりましたが、この講習会の開催に向けご尽力下さった委員の先生方、事務局の皆さんに、この場をお借りして御礼申し上げます。有難うございました。

菊原社中 菊楚代雅子

組歌講習会 「雲の上」「玉鬘」

美しく色づいた落ち葉が舞う小春日の午後、箏組歌講習会が開催されました。

今回は、裏組「雲の上」と中許新曲「玉鬘」を菊多嘉弘子先生に教えていただきました。お声がとても美しく、優しく丁寧にご指導くださる先生方の講習を、楽しみにしております。

組歌には、美しい歌詞に深い魅力を感じますが、私はまず歌詞を理解するだけで随分と時間がかかってしまいます。ひと歌ごとに久保田敏子先生の解説を読み、歌の内容を頭の中に描きます。しかし、弾いている時はただ楽譜を目で追うのが精一杯。歌詞どころか単語のまともささえ、あやふやになっていく事があります。今回の講習でも、菊多嘉先生は「感情を込めて歌って」と何度も仰っていました。歌の節と言葉のつながり、低音から高音への声の出し方や歌い方、特に「あたり」については何度も一緒に歌ってくださいました。



六、七、八の節、この音にたどって七、八の節、かかって知らぬ夢の世

まだまだ私にとっては大変難しい曲ではありましたが、今までに経験したことのない素敵な曲をご指導いただく機会が持てたことを、菊領先生、当道会の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

菊庭社中 菊和絃裕乃

開催日時 十二月二十七日(日) 午後一時～五時

開催会場 岩倉市生涯学習センター・スタジオ1

なお、今回の支部講習会開催にあたっては、広報部より、この稿と連携、講習の稽古模様を動画収録して会員で共有したらいという有意義なご提案をいただき、これを実践することとしました。

しかしながら長時間にわたった講習の収録には、編集の問題がありました(長くとも一時間半程度に収めたいという思いがありました)。

菊聖先生のご指導において、時に大きな流れの中の曲の通し、また時に一歩一歩の歩みのようなダメ出し、歌の一言一句、三絃の微妙な音の表出

の繰り返し等、残念ながらこれらの全てを収めることはできませんでした。

皆様にご覧いただく今回の動画は、撮り逃した部分も多々あり、未編集のままの部分収録動画となっております。

菊聖先生には大変申し訳なく存じますが、皆様にはどうかご理解いただいた上でのご視聴をお願いいたします。

反省点は私自身の今後の課題とします。

菊一辰巳

動画は「YouTube」(ユーチューブ)からのダウンロードで(限定公開)ご覧になれます。ご視聴手順は次のように

①このページ内のQRコードを「クルクル」などのQRコードリーダーアプリから、あるいはスマホのカメラから直接読み取る。

②自動的に動画画面が示されるので、▶をタップで再生。

この度、このような企画を立てて下さいました本部の諸先生、そしてご指導頂きました菊聖先生、会員一同心より感謝申し上げます。

愛知支部 支部長

「雲の上」「玉鬘」

「岐阜支部」支部講習会を終えて

令和四年九月二十五日、岐阜市日光コミュニティセンターにて菊聖公一先生をお迎えし、菊重精峰作曲「青い地球」と「二杯」の講習会が開催されました。コロナ禍の中、感染防止を徹底し、受講される方々に安心して参加頂ける様心掛けました。菊聖先生には一息ついて頂き早速御指導に入って頂きました。

初めに「青い地球」は、二箏、二箏、三絃、十七絃、尺八、胡弓と六パートからなり、歌詞は今の時世にまつわるコロナ禍を歌ったものです。先生からはプレスでの歌声を切る事、箏の糸がつづいている箇所は速くならないで二音ずつ丁寧に、今まであまり気付かなかった所を御指導頂きました。ここで十分間の休憩を経て次に「二杯」。この曲は三絃のみの本手、ツレの二重奏としての作物です。作曲者の菊重精峰先生の解説によりまずと、曲名の「二杯」とは嘶家さんが高座に上がった時お客様が一杯で大入りへの感謝の意を引用されたこと。一杯の酒、沢山(いっぱい)の酒、沢山(いっぱい)の酒、沢山(いっぱい)のお客様の三つを掛けた「二杯」だそうです。一杯目から十杯目までの上戸の酌町の様子が歌われており、お酒の好きな方ならこんな気分になれるのかと下戸の私は思いながら受講いたしました。



徐々にスリ上げ、低い音から指で徐々にスリ下げながらのスクイ弾きを習いました。楽譜を見ただけではどんな弾き方をするのか理解できなかったが、私たちが習得できるまで丁寧に何度も御指導頂きました。一フレーズごとにゆつくりの御指導でその都度質問ができ、未熟な私も楽しく学ぶ事が出来ました。当道会本部の先生方に直接御指導頂く機会が少ない私達、始めは緊張しておりましたが菊聖先生の熱心な御指導とわかりやすさ、そして先生の響きのある歌声にいつの間にか私達も緊張がほぐれていました。これからは菊聖先生の教えを忘れず精進したいと思います。

岐阜支部 菊上佳津子 社中 菊夕奈津子

令和四年度 下期職格試験合格者



- ◆ 少授導(三名)
 - 堀 越 る り (菊楚代 雅子)
 - 富 永 美 緒 (菊 総 絹子)
 - 阿 部 早 希 (菊多光 美鈴)
- ◆ 大授導(二名)
 - 菊田弥 幸 子 (菊田津 輝美子)
- ◆ 少勾当(二名)
 - 菊 水 詩 生 (菊 水 順子)
- ◆ 中勾当(一名)
 - 菊 怜 峰 好 貴 (菊 重 精 峰)

おめでとうございます

「子ども伝統文化体験教室」

第三九三回市民の劇場・子ども伝統文化体験教室にて、夏休みの三日間、箏体験教室の講師を岐阜支部でお受けしました。普段触れる事の少ない箏の演奏を親子で体験していただく事業です。小学生から中学生の親子二十組四十名が参加となりました。

今般のコロナ禍において、社会を取り巻く環境は大きく一変し、こうした文化活動も様々な制約が課される中、私達講師をはじめ受講者の皆様には、コロナ対策を徹底して三日間を過ごしました。

爪のはめ方や手の置き方、姿勢や基礎的な奏法を学んでいただき、はじめは不安そうに弾いていましたが、時間を重ねるにつれ、音の響きも良くなり、一人ひとりのお顔は、自信と誇らしさで輝いておられました。途中設けた休憩時間も、箏の音色が途切れる事はなく熱心に練習に取り組まれる姿に感動しました。

そして迎えた最終日の成果発表の日、会場となっていた岐阜市民文化センター小劇場では、出番を待つ子どもたちのドキドキワクワクした表情に加え、それを見守る親御様の温かい眼差しは、とても微笑ましいものでした。

成果発表の曲は、弾きたい希望の二曲をご自身で決めていただき、「さくらさくら」や「荒城の月」「登山電車」など、それぞれの替手のパートも含め舞台で発表していただきました。短い練習期間でしたが、本当によく



(一財)岐阜市公共ホール管理財団・岐阜市の主催する第393回市民の劇場「子ども伝統文化体験教室発表会」

習得され、客席からは大きな拍手もいただき、会場は温かい雰囲気になっておりました。未来への可能性を様々な秘めた子どもたちを守りながら育てていくことは、私たち大人が担うべき責任であります。日本の伝統文化に触れ、理解し、感性豊かに成長できるお力添えに、私達講師は取り組まなければいけません。今回も、ご尽力いただいた市の職員の皆様には、大変お世話になりました。こうした事業が永く続き、日本の良き伝統文化の継承・発展と子どもたちの豊かな人間性の涵養に資する目的に携わっていただけるよう続けて参りたいと思います。

岐阜支部 菊久さかゑ 社中 菊稀宗倫代

答 辞

令和四年度下期職格試験合格者を代表いたしましたして御礼の挨拶を申し上げます。本日はお忙しい中私達のためにこのような立派な授与式を執り行って頂きまして誠に有難うございます。

また伝統ある公益社団法人道音楽会の職格を授けていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

これも偏に諸先生方の温かくご熱心なご指導のおかげでございます。

まだまだ未熟な私達でございますが、これからも初心を忘れず日々精進し研鑽を積んで参ります。

今後とも、変わらぬご指導を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、本日も列席いただきました先生方のご健勝と、公益社団法人道音楽会の更なるご発展をお祈り申し上げます。御礼の挨拶とさせていただきます。

令和四年十二月十八日

菊多光美鈴 社中 阿部早希

選考合格者一覽

自 令和四年七月 至 令和四年十二月

- ◆ 三絃少授導(二名)
 - 菊志桜 令 輝 (菊志摩 令子)
 - ◆ 箏少授導(二名)
 - 安 井 佳 代 子 (木 下 栄 凛)
 - ◆ 少授導(二名)
 - 辻 玲 洸 涼 (三 上 玲 有 洸)
 - ◆ 中授導(一名)
 - 谷 玲 洸 恵 (三 上 玲 有 洸)
 - ◆ 大授導(二名)
 - 菊 久 慶 眞 (菊 昭 光 慶)
 - 菊 育 柊 五 美 (菊 由 瀬 育 子)
 - ◆ 少勾当(二名)
 - 近 藤 玲 洸 紗 (三 上 玲 有 洸)
 - ◆ 中勾当(二名)
 - 菊 由 瀬 敦 子 (菊 由 瀬 育 子)
- オンライン選考合格一覽表
二〇二三年十一月
- ◆ 少授導(二名)
 - 菊 紫 玲 久 美 (菊 紫 江 こずえ)
 - ◆ 中授導(二名)
 - 菊 未 央 悠 (菊 未 央 順 子)

【訂正とお詫び】

会報一二二号(令和四年八月) 選考合格者の欄にお名前が間違っており掲載されておりました。訂正してお詫び申し上げます。

道 端 幾 重 ↓ 道 端 郁 恵 事務局

口三味線問題 1小節2点 2拍1点

(少)中授導のみ口三味線

第七問採点欄

口三味線 口三味線 口三味線

第七問(1小節2点×10) 十小節の口三味線を記入しなさい。

第七問採点欄

第六問(勾当級のみ) (1小節2点×10) 聴音し縦譜を仕上げなさい。(小節間を記入)

第六問採点欄

第五問(授導級のみ) (1小節2点×5) 「六段の調へ」の三段目の最初から五小節間を記入しなさい。

第五問採点欄

文化庁 邦楽チャレンジ!

この度、令和四年十月八日(土)に門真市民文化会館ルミエールホールに於きまして文化庁「子供たちのための伝統文化の体験機会回復事業 邦楽チャレンジ」の鑑賞演奏と和楽器体験の助手として尺八の阪口夕山先生と菊重精峰先生、そして私の三人で菊重精峰作詞作曲の『猿蟹昔物語』を、生演奏し、その後ろにスライドを用いて画像を映し、目と耳で参加者に楽しんでいただきました。他に、常磐津『戻り橋』、琵琶『茨木』、長唄『鞍馬山・五条橋』の合計四曲が演奏されました。小中学生は目を輝かせ、スライドに映された歌詞と絵を見ながら演奏に耳を傾けておりました。

鑑賞演奏が終わわり、場所を変えて今度は楽器の体験へと続きました。体験の助手として同じ社中の菊重峰優佳さんにも手伝っていただき約五十名の体験参加者を五グループに分け、爪の付け方を指導し、各々十分程度の時間でしたが、菊重先生の手慣れた進行で「さくらさくら」を最後は合奏して仕上げ親御さん共々、皆さん喜んで帰られました。普段のお稽古では静かに教えられる先生ですが小中学生がお相手でしたのでテンションを上げ、こやかに体験を進められるお姿を拝見し、大変勉強になりました。

舞台での演奏は多数させていただいておりますが、今回はスライド付きの鑑賞演奏と演奏もあり普段の緊張感とは違った感覚で演奏させていただきました。このような機会をい

鑑賞と和楽器体験 邦楽チャレンジ!

令和4年10月8日(土) 開演13:30 16:00

門真市民文化会館ルミエールホール 参加無料

菊重精峰社中 菊重峰好貴

ただけましたのは、師匠はもとより、当道音楽会会員であったからこそ出来た私としての貴重な体験でもありました。本来なら、令和四年一月三十日(日)開催のイベントがコロナ禍の為に中止となりましたが、あらためて今回開催出来て本当に良かったです。

今後も普段からしっかりと練習をし、芸に磨きをかけ、三絃を続けて参りたいと思います。いい経験をさせていただき本当にありがとうございました。

令和4年度下期職格試験問題(各職格共通)

令和4年12月4日施行
令和4年12月11日施行

- 第一問 (解答用紙に記入)
次に示した箏調絃について下記の各問に答えなさい。
壹越楽調子(一は五と同音)
- ① 四の絃の音名を日本の十二律名(漢字記入)で答えなさい。また、六の絃の音名を洋楽の英語音名で答えなさい。
 - ② 五の絃の音名を三絃の現行音名(漢数字)で答えなさい。また、八の絃の音名を都山流尺八(八寸管)の音名で答えなさい。
 - ③ 二と五、三と七、五と八、それぞれの絃と絃の音程を答えなさい。(何度)
 - ④ 上記五線譜で示した箏調絃から平調子に調子替え(転調)した場合の九、十、斗の各絃を十二律名で答えなさい。
- 第二問 (解答用紙に記入)
- ① 箏の一を壹越で取り、中空調子で調絃したときの九から巾までの各絃の音名を都山流尺八(八寸管)の音名で答えなさい。
 - ② 箏の一を神仙で取り、古今調子で調絃したときの五から九までの各絃の音名を都山流尺八(二尺管)の音名で答えなさい。
- 第三問 (解答用紙に記入)
- 第1絃(イ)が六本の二上り調子の三絃、およびこれに合奏する平調子の箏について、解答用紙の各問に相当する音名を十二律名で答えなさい。
- 第四問 (解答用紙に記入)
- 二尺管尺八の「チ」を五に取った箏の楽調子の九から巾の音名を英米音名で答えなさい。
- 第五問 (調子名は解答用紙に、六段は別紙に記入)(授導級のみ)
録音された箏および三絃の調絃を聴き、その調子名を書きなさい。また六段の縦譜を仕上げなさい。
- 第六問 (別紙に記入)(勾当級のみ)
録音された三絃の曲を聴音し縦譜を仕上げなさい。
- 第七問 (別紙に記入)
三絃楽譜の横に口三味線を書き入れなさい。(ツン・テン・チンなど)

第一問 (各問2点、計20点)

問題No.	解 答 欄				
①	四	神仙	六	E	
②	五	六本	八	チ	
③	二と五	完全五度	三と七	短七度	五と八 重増五度
④	九	鸞鏡	十	壹越	斗 断金

第二問 (各問2点、計20点)

問題No.	解 答 欄									
①	九	人(半音)	十	口	斗	メツ	為	ツ	巾	チ
②	五	口	六	ッ(半音)	七	レ	八	チ	九	人

第三問 (各問2点、計10点)

七	八	九	十	斗
双調	黄鐘	鸞鏡	壹越	断金

第四問 (各問2点、計10点)

箏の九	箏の十	箏の斗	箏の為	箏の巾
F	G	A	C	D

第五問 (各問2点、計10点・六段の調は一小節2点 計10点) ※授導級のみ

1	2	3	4	5
半雲井調子	楽調子	中空調子	二上り	三下り

加古川市邦楽文化協会・竹籬社・菊和会 70周年記念演奏会を終えて～4つの“初めて”～

1 邦楽演奏会の感想 田中 遥 (小6)

今回は初めての演奏会でした。本番前すごく緊張していて、舞台上がってからもすごく緊張しました。自分が一人で弾くところが終わるとホッとしました。なんとか、大きなミスがなく弾けて良かったです。大勢の人と合奏するのは初めてでしたが、とても楽しかったです。

本番前すごく緊張していたけど、着ている着物を見るとおもわず心の中で「うふふ」と言っていました。とても綺麗なお着物が着れてとても満足しています。次の曲もがんばって綺麗に弾きたいです。

2 初めてのお箏の演奏会 鈴木 莉世 (中1)

今まで大きなホールで演奏したのは、小学校低学年の頃に習っていたピアノの発表会の時だけでした。あの時は緊張して間違えてしまいましたが、今回のお箏の演奏会ではみんなで一つの曲を演奏したので、あまり緊張せず、間違えずに弾くことが出来ました。

演奏会の前にはテスト期間などで練習できないこともありましたが、当日楽しく演奏できたので嬉しかったです。これからも頑張ってお稽古したいと思います。

3 初めての合奏 長谷川 柚妃 (中2)

今回の演奏会では、初めて大人の人たちとの合奏に参加しました。とても緊張しましたが無事に全てやり遂げることができて良かったです。

先生の家での練習時は、来る時はバスで、帰りはいつも母が迎えに来てくれました。こう思うといつも私は家族に支えられていると改めて実感しました。本番前日のリハーサルでは、母が用事で送迎ができなかったので頑張って自転車できました。たくさん汗をかいて疲れましたが、帰ってから「よく頑張ったね」と母に褒められたのを今でも覚えています。演奏会の時を思い出しても、沢山のひとと共に頑張ったことは初めてだったので、これからもっとこういう経験をしたいと思いました。まだまだ未熟なものでもっと練習してもっと上手になりたいです。

4 邦楽演奏会を終えて 橋本 美穂

お箏を習い始め、演奏会に出演できるようになった頃に新型コロナウイルス感染症が流行したため、今回が初めての演奏会となりました。曲のイメージのふくらませ方や、抑揚、緩急、余韻などを教わりながら、皆で息の合った音楽をつくり上げることの難しさを知りました。

一音一音しっかり弾くことや、正しい音程、リズム、響きの良い音を出すことなど、ふだん先生から教わっていることが出来て初めて、合奏がうまくできるのだなあ、ということもわかりました。先生の教えをしっかり聞いて、楽しく演奏できるように、これからも精進したいと思います。



「当道音楽会」ホームページへのお誘い

本会ではインターネット上に当道音楽会の様々な情報を掲載した「ホームページ」(「WEB サイト」とも)を開発しています。ところが現状、その閲覧や利用状況は低調で、会員の中でも「スマートフォンは持っているけれど、当道音楽会のホームページは一度も見ることがない」「何回かは閲覧したが今はほとんど見ない」あるいは「どうすれば見られるのか、その閲覧方法がわからない」といったお声もありました。

そこで広報部では、スマホは利用しているが当道音楽会のホームページの見方がわからないといった方々向けに、わかりやすい閲覧方法をご案内します。ではその手順を順番に見ていきましょう。

まずは最も手っ取り早い、QRコードを読み取ってホームページに入る方法

この紙面にQRコードを掲載していますが、これをスマホのカメラで撮影状態にしてかざすと(撮影ボタンは押しません)、画面の上方などにポップアップという小さい別の画面が現れますので(「～で開く」の文字)、これをタップ(指先でポンと触れてすぐに指を放す)、そうすると当道音楽会のトップページが開かれます。

なお上の方法でうまく読み取れない場合は、「クルクル」などQRコード読み取り専用アプリをスマホに入れ、このアプリ起動で読み取りますが、詳細はここでは省略させていただきます。



次によく使われる、ホームページの検索サイトを利用してホームページに入る方法

お手元のスマホにはネットを検索する「グーグルGoogle」(4色のGの文字)や「サファリSafari」(コンパスの図)のアプリがスマホに標準で入っていると思いますが、そのアイコン(アプリを表す図形)をタップ、最初のページに「検索」の項目が画面の上方あるいは下方に現れますので、ここに「当道音楽会」(ひらがなでも可)と打ち込みます(あるいはこの打ち込み欄の右端のマイクのマークをタップして「とうどうおんがくかい」と声で話しての入力もできます)。

そうしますと、その打ち込んだ内容に関連した様々なホームページの候補が表示されますが、その中の最初の方、上位にある「公益社団法人 当道音楽会」が本会の公式ホームページとなりますので、この文字列をタップすることにより本会のホームページに入ることができます。

また先ほどの検索画面で打ち込み欄の右端マイクのそのまた隣にあるカメラのマークをタップして先ほどのQRコードを読み取ることによっても直接、当道音楽会のホームページに入ることができます。お試しください。

当道音楽会のホームページ(写真)のトップページには大きな3つの項目、「会のご案内」「活動情報」「活動報告」が、そしてそれぞれの項目にいくつかの項目が示されています。また会員専用のページ(パスワードが必要)も、紙面が尽きました。内容の詳細はまた機会を改めてご案内いたします。広報部では今回アンケートを実施し、それをもとにより魅力のある、親しみのあるホームページにするべく、内容の刷新を進めてまいります。

(記・菊一辰巳)



『高知支部菊由瀬育子氏、高知県文化環境功労者表彰』



元高知支部の支部長も務められました菊由瀬育子先生が、この度高知県文化環境功労者として県より表彰されました。この賞は長年にわたり県の文化に貢献された方に与えられるもので、数多くの演奏会や小学校などのボランティア活動等が評価されてのご受賞でした。

令和5年度 (2023年) 事業計画案

令和5年(2023年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで

令和5年 (2023年)					
月 日	曜日	時 間	項 目	会 場	内 容 (備 考)
4月 9日	(日)	12:00	職格選考試験	本 部	
4月26日	(水)	11:00	常務会	本 部	理事長・副理事長・各常務理事
5月14日	(日)	11:30	受験の為の楽理講習会	本 部	講師 菊重 精峰 師
5月10日	(水)	11:00	理事会	場所未定	
5月28日	(日)	13:00	第140回記念定期演奏会	国立文楽劇場	
5月31日	(水)	11:00	常務会	本 部	理事長・副理事長・各常務理事
6月 4日	(日)	8:30	上期職格試験	本 部	
6月11日	(日)	8:30	上期職格試験	本 部	
6月18日	(日)	11:00	職格辞令授与式	本 部	
6月21日	(水)	10:00	参与会 (10時~11時)	大阪国際交流センター	(3F 中会議室 銀杏)
//	//	11:15	支部長会 (11時15分~12時45分)	大阪国際交流センター	(3F 中会議室 銀杏)
//	//	14:00	総 会 (14時~15時半)	大阪国際交流センター	(3F 中会議室 銀杏)
7月 9日	(日)	10:00	オンライン地方選考	本部・地方	
7月12日	(水)	11:00	常務会	本 部	理事長・副理事長・各常務理事
7月23日	(日)	13:00	古典曲講習会	本 部	講師 菊領 令華 師【有馬獅子】
8月 6日	(日)	10:30	作曲者講習会	玉水記念会館	講師 小田 誠 師
8月 9日	(水)	11:00	常務会	本 部	理事長・副理事長・各常務理事
8月13日	(日)	12:00	職格選考	本 部	
9月 6日	(水)	11:00	常務会	本 部	理事長・副理事長・各常務理事
9月10日	(日)	10:00	オンライン地方選考	本部・地方	
9月20日	(水)	14:00	理事会	場所未定	
10月 8日	(日)	12:00	職格選考	本 部	
10月11日	(水)	11:00	常務会	本 部	理事長・副理事長・各常務理事
11月 5日	(日)	11:30	受験の為の楽理講習会	本 部	講師 菊重 精峰 師
11月 8日	(水)	11:00	常務会	本 部	理事長・副理事長・各常務理事
11月12日	(日)	10:00	オンライン地方選考	本部・地方	
11月19日	(日)	13:00	組歌講習会	本 部	講師 菊多嘉 弘子 師
12月 3日	(日)	8:30	下期職格検定試験	本 部	
12月10日	(日)	8:30	下期職格検定試験	本 部	
12月13日	(水)	11:00	常務会	本 部	理事長・副理事長・各常務理事
12月17日	(日)	11:00	職格辞令授与式	本 部	
令和6年 (2024年)					
1月17日	(水)	11:00	常務会	本 部	理事長・副理事長・各常務理事
2月 4日	(日)	13:00	古典曲講習会	本 部	講師：未定
2月11日	(日)	12:00	職格選考	本 部	
2月14日	(水)	11:00	常務会	本 部	理事長・副理事長・各常務理事
3月 6日	(水)	11:00	常務会	本 部	理事長・副理事長・各常務理事
3月10日	(日)	10:00	オンライン地方選考	本部・地方	
3月27日	(水)	14:00	理事会	場所未定	

※ 奇数月第二日曜に地方選考・地方選考オンライン(本部)を開催。
 ※ 毎月第一、第三土曜日に、邦楽普及を目的とした「うえまち台 和音塾」を本部で開催。
 ※ 上記は計画につき変更となる場合があります。

140回 定期演奏会曲 「さくらさくら」

初回練習に子供達を参加させて



明治時代の創立を誇る当道音楽会の「第一四〇回定期演奏会」出演者募集のお知らせを受けた時は、夢のような出来事に驚くばかりでした。「当道音楽会」が明治の時代に創立されて以来、長きに渡り文化継承のこの地で子ども達も受け入れられていることに深い感動を覚えました。以下、初めて参加した練習を終えての子どもたちの素直な感想です……

● 沢山の人がいて、緊張したけれどとても楽しかった。

● 本番の雰囲気を感じられて良かった。

● とても演奏会が楽しみ。等々

この体験が一生の思い出となり、それが未来に繋がっていくことを期待しています。最後にになりましたが、この企画を実現して下さった当道音楽会の皆様に御礼申し上げます。

菊音齋社中 菊優齋為久子

関西学院大学 第六十回定期演奏会を訪ねて

令和四年十二月三日に、文化庁・令和四年度邦楽普及拡大推進事業として選ばれました、関西学院大学(以下、関学)の邦楽クラブの演奏会に行つて参りました。

この「邦楽普及拡大推進事業」は文字通り文化庁が伝統文化の継承と発展を図るために、邦楽に関する高等学校の部活動や大学の部活動・サークル活動の充実を通して、生涯にわたり演奏や鑑賞を楽しむ愛好者となるきっかけ作りができ、安定的に稽古や実演に取り組める環境整備を行えるように企画された事業です。

私が指導に行つております高校も、コロナ禍で部活動がままならなくなり、新入生の勧誘も出ず、ようやく今秋、文化祭での演奏が三年生の在学中、最初で最後の演奏になってしまいました。そんな中、関学では新入部員が十四名入部され、箏だけでなく、三絃の演奏も新入部員が担当するとあつて、私の勉強も含め楽しみに会場に向かいました。

演目は、一、野村正峰作曲《花かげ変奏曲》二、楯山登作曲《金剛石》三、菊重精峰作曲・箏四重奏《まほら》四、菊重精峰作曲・合奏曲《新月》五、菊重精峰作曲《菊花繚乱》です。四曲目は卒業生とのコラボでしたので、四曲目以外、学生のみ感想ですが、全体に爪音がよく、一曲一曲丁寧に、違うパートの音もお互いが良く聴き合い演奏されて、観客の私達も気持ちよく聴かせて頂きました。プログラムの見ますと学年は判りませんが、皆さんしつかりと演奏され学年の差を感じさせず、コロナ禍でも自分たちなりに考え、色々駆使して練習に励んでいた様子がうかがえました。特に三曲目の《まほら》は曲中に変

拍子が多く用いられ、演奏パート以外のパートも注意深く聴かなければ、「ズレ」やすいのですが、上手に演奏されていました。一年生が多数でしたので、初めて爪をつけ、四月から練習を始めたとは思えない演奏で感心致しました。三絃は幕内で調弦を合わせているのが客席にも聞こえていたのですが、なかなか音が定まらない様子で、見切り発車で幕が開いてしまったような曲や撥を持つ角度が気になる方も中には居られました。ですが皆さん「ツボ」でカバールし、棹の位置など演奏姿勢も良く、四月から始めたとは思えない堂々たる演奏でした。この学生達が在学中、より一層精進され、社会人になつても続けて邦楽に携わつて下さる事を願うばかりです。

菊信木洋子



